

協働事業評価シート(表)

事業名称	吹上しょうぶ公園ガイドボランティア事業	担当課	商工観光課観光係
------	---------------------	-----	----------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所 期間:平成29年5月26日～6月25日 場所:吹上しょうぶ公園
2継続事業
(2) 事業の目的 来園者へのサービス向上を図る
(3) 事業の成果目標(数値目標等) 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数86人)
(4) 実施内容(実績値等) 花しょうぶまつりでの来園者へのガイド(述べ活動人数86人)
(5) 事業経費(決算額) 消耗品費:659円

2 協働の内容

(1) 協働の形態 3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:吹上しょうぶ公園ガイドボランティア 参加人数:24人
(3) 協働の提案者 1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ 来園者へのサービス向上を図る
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 2. 実施段階
(6) 役割分担 市民側: ガイドの実施 行政側: 講習会の開催、消耗品の購入、日程調整、会議の開催

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	2	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	2	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	2	3
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	3	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	4

(11) 協働による効果

市民側

ガイドをすることによって花の知識、公園の知名度を来園者にも口コミで広めてもらえるように心がけた。

行政側

来園者にガイドを実施してもらうことでサービス向上となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

知名度が低いことはお客様にも指摘されているが、気分良く帰って頂くことで評判という宣伝効果もあると思う。

行政側

ガイドボランティアさんが気軽に参加できるような体制づくりを引き続き協議していきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	森林ボランティア育成講座	担当課	農林水産課 (旧農林課)	林務水産係 林務係)
------	--------------	-----	-----------------	---------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年5月13日、7月8日、9月2日、12月2日、平成30年1月13日、3月10日(計6回) 場所:青梅の森 他
2継続事業	
(2) 事業の目的	森林ボランティアの育成と組織化を図り、適正な森林整備を行う。 また、平成22年度からは杉並区との間で協定を締結し、共同で実施することで講座受講者の拡大を図っている。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	年間6回の講座開催。 講座受講者31人(青梅市14人、杉並区17人)×講座回数6回=のべ186人
(4) 実施内容(実績値等)	講座は2年を1期として実施し、平成29年度は第8期の2年目として実施。 講座内容は、下刈り、間伐、道づくり、枝打ち、植栽等。
(5) 事業経費(決算額)	森林ボランティア育成講座実施業務委託料 決算額828,000円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	4.事業委託
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅林業研究グループ 参加人数: 毎回10人程度
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	平成14年から森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成を図ることを目的に講座を開催している。講座の指導者には、森林施業に関する専門的な知識、技術が必要であることから、経験も豊富であり、他の団体に対しても指導を行っているNPO法人青梅林業研究グループに委託している。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 講座内容の決定、資材の準備、当日の実技指導 等 行政側: 講座受講者への連絡、会場確保、講座内容の調整 等

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

日本の山林の状況をよく理解することができた。森林作業を体験することにより、森が変わっていくことを実感することができ、少しずつでも手を入れて行くことの大切さがわかった。今後も森林保全に関わっていきたい。青梅の森の保全活動も進んだと思う。青梅の森をはじめ、作業内容にあった市有林で、様々な作業ができることは、受講生にとって良い環境ができています。また、青梅の森の保育保全も進んだ。

行政側

青梅林業研究グループには、森林施業に対する深い知識や技術を持ち合わせた者が多く在籍し、本講座以外にも多くの場で指導を行っており委託先としてふさわしく、受講生からは親切・丁寧な指導に対して感謝のことが多く寄せられている。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

今後も継続して森に関わっていける場を考えて欲しい。また、さらに技術を勉強できる機会があればいいと思う。より多くの方が森林保全に関わっていけるといいと思う。全12回の講座で、欠席者が少なくなるようにプログラムの充実を図りたい。この講座を受講することにより、さらに森林に興味を持ち、スキルアップができるよう、またこの事業を広めることにもお力添えいただきたい。

行政側

前年度では積極的な受講希望者の減少という問題をお互いの話し合いの中から、体験会の実施や募集周知方法の改善によって、30年度には回復を図ることができた。今後は、受講生の高齢化問題や欠席者の増大などに対して、魅力的なカリキュラム等で講座自体を活発化することを協議する場を設ける必要があり、また、200人を超えた修了生に対する活動の場の提供や活動内容の支援も重要な課題となっている。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	学校教育ボランティア	担当課	指導室
------	------------	-----	-----

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 毎年度 場所: 市立小中学校
	1単年度事業、2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	青梅市立小・中学校の教育活動を継続的に支援できる個人または団体を青梅市教育ボランティアとして登録し、地域の教育力として活用することにより、学校教育の充実および活性化を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	地域人材の活用した学校教育活動の充実
(4) 実施内容(実績値等)	学習活動への支援、生活指導への支援、交流・体験活動への支援、クラブ活動への支援、学校図書館における整備等の支援、学校行事への支援、特別な教育的支援を要する児童・生徒への支援、その他、学校が必要とする活動への支援
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名: 参加人数: 市民 約400人(各学校合計)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市教育ボランティア制度実施要綱にもとづき各学校が募集、登録
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 学校の依頼にもとづく支援 行政側: 学校への活用奨励

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3
(11) 協働による効果			
市民側 様々な分野で学校の教育活動を支援することができた。			
行政側 地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 学校の都合で日時が限定される。			
行政側 図書室整理などではなくてはならない存在となっている。(登録約400人)			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	生涯学習フェスティバル ～釜の淵新緑祭2017～	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年5月13日(土)、14日(日) 場所：釜の淵公園およびその周辺施設
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成20年5月)
(2) 事業の目的	各種団体・サークル活動の発表場所の提供、体験イベントによる学習機会の提供、および生涯学習事業の周知
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	来場者・参加者 3,065人
(4) 実施内容(実績値等)	出演団体・サークルによる各種ダンス、合唱、楽器演奏、おはなし会、竹細工展示・販売、手品、野点による抹茶接待、青梅だがりや楽校による体験イベント、木工クラブ、市内の団体・企業による飲食物販売。
(5) 事業経費(決算額)	113,852円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1.政策立案・事業企画等に参加
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：青梅市生涯学習推進市民会議、各出演団体、学生ボランティア 参加人数：104人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	青梅市生涯学習推進市民会議の事務局として
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側： 企画運営 行政側： 事務局

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
	(3) 協働の役割分担は適切だった	3	3
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	3
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	3
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

飲食物の販売が拡充されてお客さんの滞在時間も長くなり良くなっている。体験イベントも充実しており、全体として工夫がされていた。多摩リハビリテーション学院の学生たちが、幅広い年齢層の方と接するきっかけとなった。

行政側

来場者の年齢層が幅広くなるようなイベントの工夫や目的のイベント以外にも観てもらえるような工夫ができるとよい。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

来場者の年齢層が幅広くなるようなイベントの工夫や目的のイベント以外にも観てもらえるような工夫ができるとよい。

行政側

市民も一緒に行う作業の幅も増えてきて協働が進んでいると考える。実行委員会の運営もさらに市民が主体的に実行できるようにサポートしていくことが必要。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	家庭教育講演会	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	---------	-----	--------------

1 事業の内容

<p>(1) 実施期間および場所 期間:①平成29年7月15日、②平成29年11月12日、③平成30年2月24日 場所:いずれも青梅市福祉センター集会室</p>
1単年度事業、 2継続事業 ※継続事業の場合、事業の開始時期(平成22年7月)
<p>(2) 事業の目的 家庭教育の充実を図る。</p>
<p>(3) 事業の成果目標(数値目標等) 年三回、その時々課題となっているテーマで講演会を実施する。</p>
<p>(4) 実施内容(実績値等) ①〈どう守ったらいいの?子どもの安心安全〉～CAPで学ぶ親と地域の大人に出来ること～ ②小学校に入るまでに知っておきたい5つのこと～現場の先生から見た子育て～ ③どうしてイライラしてしまうの?子育ての不安を和らげるヒントを学ぼう</p>
<p>(5) 事業経費(決算額) ①保育業務委託料 11,784円 ②保育業務委託料 14,730円 ③保育業務委託料 14,730円</p>

2 協働の内容

<p>(1) 協働の形態 1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 4 事業委託</p>
<p>(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数 団体名:NPO法人 青梅こども未来 参加人数:講演会各回10人前後</p>
<p>(3) 協働の提案者 1 行政からの提案 2 団体等からの提案</p>
<p>(4) 協働の理由・きっかけ 子育ての現場の声を反映した講演会とするため。</p>
<p>(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。 1 計画段階 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(</p>
<p>(6) 役割分担 市民側: 保護者への周知、講師等の情報提供、こどもの保育、当日受付・手伝い 行政側: 周知、講師交渉、当日運営</p>

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	4	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	3	3
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

(11) 協働による効果

市民側

- ・役割分担することで効率が上がり、家庭教育という1つの趣旨での年3回の開催が可能になっている。
- ・事前の打ち合わせをしっかりと行い、社会的に問題になっていることを講演会のテーマとして取り上げることが出来た。
- ・託児付きの講座であることが定着したこと、関係各所でPRしたことで若い父母の参加が多く、託児(保育)の定員を超える希望があった。
- ・市民側からも講師の候補を上げることが出来た。

行政側

- ・子育ての現場に関わる市民と協働することで、市民の求める内容の講演会を実施できた。
- ・講演会中の託児保育により、対象となる子育て中の保護者が参加しやすい環境を整えることが出来た。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

- ・より多くの市民の方に参加していただくために、考えられる手立て(時期・テーマ・広報・場所等)の再考が必要かと思う。待っているだけでは、折角のよい情報が必要なところに届かないという現状を鑑みると、幼保や小学校など対象とされる施設での出前講座など、積極的な展開も必要ではないかと思う。
- ・託児希望者が託児の定員を超えてしまうと講演会に参加できないのが残念である。子ども同伴も可とした内容の講演会を検討していく必要もある。
- ・昨年も課題として報告したが、市が設定している講師料と候補に挙げたい講師の講演料がかけ離れているため、講師選定が難しくなっている。

行政側

- ・講演会に参加しづらい地域に居住している市民を考慮し、会場の選定を検討していきたい。
- ・参加者増加のための周知方法を検討していきたい。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	あつまれ！0・1・2・3 ちびっこ☆ランド	担当課	社会教育課生涯学習推進係
------	-----------------------	-----	--------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成30年3月4日(日) 場所:青梅市総合体育館 第2スポーツホール
1単年度事業 <u>2継続事業</u>	※継続事業の場合、事業の開始時期(年 月)
(2) 事業の目的	子育て中の家族が楽しく過ごす場を提供し、乳幼児の知性・感性・社会性を育て人格形成を図るとともに家族の絆を深めるきっかけ作り
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	市民のニーズに合わせた乳幼児向け体験型イベントを実施する。
(4) 実施内容(実績値等)	参加者94人
(5) 事業経費(決算額)	48,479円

2 協働の内容

(1) 協働の形態	1 政策立案・事業企画等 2 事業共催 3 事業協力 <u>4 事業委託</u>
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:NPO法人 青梅子ども未来 参加人数:25人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案 <u>2団体等からの提案</u>
(4) 協働の理由・きっかけ	団体からの提案
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	<u>1 計画段階</u> 2 実施段階 3 その他 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画、当日の指導・運営 行政側: 周知、申込受付、会場・備品の準備

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	5	5
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	5
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側

社会教育課との協働事業だったので、広報掲載や開催場所との連絡、同日に同会場通路を使う団体との事前確認、備品の借用、参加者の申し込みや受付等がスムーズに出来た。

行政側

実績のある団体の企画であり、市民のニーズに合った乳幼児向けイベントができた。前年度と比べても参加者が多く、良い事業展開となった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

市民のニーズに合ったイベントを行うため、情報交換の場を多く持ち、検討していく事が必要。同日開催の団体・駐車場利用についての事前把握が今後の課題。(今回、事前に少し大きな別イベント(カヌー大会)が朝から河原で開催されることを把握していなかったため駐車場の確保が難しい状態になっているのを当日現場に行って知ることとなった。急遽別イベント担当者と駐車場のシェアを相談し駐車場係を配して10数台の確保は出来たが充分とは言えず、駐車に困った参加者もいた。)

行政側

同日開催の別事業があり駐車スペースの確保に苦慮することとなったため、同日に会場周辺で開催されるイベントなどにも気を配る。また、前は釜の淵市民館で開催したが、今回の参加者アンケートでは参加の理由に来場のしやすさを挙げた回答が複数あったため、会場選定も重視する。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(表)

事業名称	この指とまれ！朗読会	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年5月20日 場所:中央図書館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成25年 月)
(2) 事業の目的	朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	朗読参加者等の確保
(4) 実施内容(実績値等)	朗読グループ「リーダーズあおうめ」と中央図書館が共催で、年齢、性別を問わず、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場の提供を行い、朗読会を開催する。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	2.事業共催
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「リーダーズあおうめ」 参加人数:9人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	リーダーズあおうめによる朗読会は、以前より行われていたが、朗読に興味のある方を募集し、朗読の発表の場を提供し、朗読会を開催するなど、図書館の設置目的と合致することから、共催で実施することとした。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側: 企画立案、広報、応募者の取りまとめ、朗読会の開催運営 行政側: 企画立案、広報、会場提供、朗読会の開催支援

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	4
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

(11) 協働による効果

市民側

会場設営などを分担していただき、効率的な運営が図られた。

行政側

朗読会の開催により読書や朗読への関心を高めていただくことによる図書館の利用の促進と、市民団体と行政が協働することにより、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を推進することができた。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側

読みたい希望者、聞きたい希望者が共に増加傾向にあり、実施時間や会場の設営など考慮する必要がある。

行政側

この活動は、図書館の設置目的の推進に有用であるため、市民と行政が連携することによって、より参加者が楽しく参加できるイベントへと発展させていく。

事業の様子(写真等)

29年度開催時には広報用ポスターを作成し、使用した(別紙)



協働事業評価シート(表)

事業名称	中央図書館整架ボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	---------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間:平成29年4月1日～平成30年3月31日 場所:中央図書館
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成18年11月)
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	整架ボランティアの人員確保、図書館の環境整備(整架、配架、資料清掃、資料修理)
(4) 実施内容(実績値等)	整架ボランティアにより、中央図書館の配架および書架の整理と軽易な資料修理を行っている。
(5) 事業経費(決算額)	なし

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:図書館整架ボランティア登録者 参加人数:延べ 228人(登録者19人、年間活動日数218日)
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動場所の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	
市民側:	図書 of 整架・清掃、本の修理
行政側:	ボランティアに対する社会的活動の場の提供

協働事業評価シート(裏)

1できなかった 2あまりできなかった 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話し合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	4
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
	(4) 協働相手は適切だった	3	4
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	3	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	3	3
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側			
図書館事業への参画を通じて、社会貢献を行うとともに、自身の興味や技術を増進することができた。			
行政側			
ボランティアの受け入れを通じて、より利用者の利便性を高め、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図れた。また、業務負担の低減にもつながった。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側			
図書館側とより活発な意見交換をすることにより、より効率的な作業を行えるようにする。また、新旧ボランティアの交流を行い、より情報共有に努め、誰もが自信をもって作業にあたるようにする。			
行政側			
ボランティア側の疑問点等を積極的に聴取し、ボランティア活動の行いやすい環境を提供する。さらに自立的活動ができるようサポートする。(わかりやすいインフォメーション、窓口の明確化等)			
事業の様子(写真等)			

協働事業評価シート(表)

事業名称	おはなしボランティア	担当課	社会教育課 図書館担当
------	------------	-----	-------------

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間: 平成29年4月1日から平成30年3月31日 場所: 中央図書館、梅郷図書館、今井図書館、市内小学校ほか
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成19年 月)
(2) 事業の目的	市民と行政が協働し、市民に開かれ、親しまれる図書館の実現を図ることを目的とする。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	おはなしボランティアの人員確保、おはなしの技術向上、絵本の読み聞かせ技術向上
(4) 実施内容(実績値等)	おはなし会16回(中央)、12回(今井)、3回(梅郷)、12回(絵本の森)、おはなし学習会(初級)8回、新緑祭1回、絵本のべんきょう会6回、出張おはなし会7校34クラス、新町スペシャルおはなし会2回 おはなしドーナッツ (おはなし学習会【中級】12回)
(5) 事業経費(決算額)	18,000円(おはなし学習会講師報償金 3,000円×6回) 36,000円 (絵本のべんきょう会講師報償金 6,000円×6回) 18,000円 おはなしドーナッツ講師報償金 3,000円×6回

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名:「青梅おはなしの会」、「おはなしの会 ころりん」、「絵本の研究会」、個人登録ボランティア 参加人数:延べ 223人
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	図書館の仕事や地域社会への貢献に興味のあるボランティアの活動の場の提供
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	2. 実施段階
	その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	
	市民側: おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会への参加、実演
	行政側: おはなし会、おはなし学習会、絵本のべんきょう会、おはなし勉強会の開催

協働事業評価シート(表)

事業名称	「鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし事業」	担当課	文化課
------	--	-----	-----

1 事業の内容

(1) 実施期間および場所	期間：平成29年11月11日(土) 場所：青梅市釜の淵公園内 旧宮崎家住宅
2継続事業	※継続事業の場合、事業の開始時期(平成28年7月)
(2) 事業の目的	青梅市の市名の由来である平将門の子孫と称する三田弾正を活かした地域おこしに向け、また観梅市民まつりに参加するための手作り甲冑教室を開催するとともに、郷土の歴史と文化を学び合うことを通じて郷土を愛する心を育てる。
(3) 事業の成果目標(数値目標等)	旧宮崎家住宅の座敷において、平成28年度に作成した5領の甲冑を展示し、戦国時代に青梅を中心として活躍した三田氏を中心に郷土の歴史、文化財について興味を持つきっかけを提供する。併せて試着体験をすることにより甲冑の構造や戦国時代の戦争について改めて考えることを目的とする。
(4) 実施内容(実績値等)	旧宮崎家住宅縁側に5領の手作り甲冑教室で作成した甲冑と講師の手作り甲冑1領の合計6領を展示した。見学に来られた方に資料の配布と説明を行い、希望者には甲冑の試着体験を実施した。なお、記念撮影として兜のみを付けての撮影も実施した。
(5) 事業経費(決算額)	

2 協働の内容

(1) 協働の形態	3.事業協力
(2) 協働相手の団体名および団体からの参加人数	団体名：武州青梅三田弾正手作り甲冑隊 参加人数：5名
(3) 協働の提案者	1行政からの提案
(4) 協働の理由・きっかけ	文化課と武州青梅 三田弾正手作り甲冑隊とで平成28年度市民等との協働事業「鎌倉時代から戦国時代にかけて青梅を中心に活躍した「武州青梅三田弾正手作り甲冑隊」を活かした地域おこし事業」を実施した。今後の課題の中で、甲冑を使用した甲冑の試着や文化財の周知活動などがあげられていた。
(5) 協働が開始された段階は次のうちどれですか。	1. 計画段階 その他の場合具体的に(
(6) 役割分担	市民側：甲冑の展示、説明 行政側：広報、開催場所の予約

協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	3
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	4	3
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
	(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
事業終了後	(8) 設定した目標が達成された	4	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

(11) 協働による効果

市民側 郷土博物館で展示・試着体験を行い ①手作り甲冑の認識が広まる ②訪れた市民に甲冑を通じた文化と歴史を認識してもらえた ③ 試着体験で甲冑の名称など学習の場になった

行政側

当日は「東京文化財ウィーク2017」という、東京都内全域で文化財についての普及、活用期間中であったため、甲冑の展示ならびに試着体験をすることができ、青梅市の戦国時代、当時の豪族である三田氏、武具などを知っていただける良い機会となった。当日の参加者は半日で87名にのぼり盛況であった。

(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)

市民側 ① 甲冑制作体験を行い、多くの市民に歴史と文化に親しみを持ってもらいたい ② 東京オリンピック・パラリンピックに向け青梅を訪れる人を増やす為に今後も広報や他のメディアに広めて欲しい ③ 甲冑の先進的な自治体の情報を共有したい

行政側

周知が広報だけであったので、HP、ツイッターなどを利用すれば、なお、見学者が増えたと考える。甲冑試着体験が多く来た際のことを順番や待ち時間などを考える。実際に作成のミニ体験もできるとさらに普及活動ができると思われる。

事業の様子(写真等)



協働事業評価シート(裏)

1できなかつた 2あまりできなかつた 3ほぼできた 4できた 5非常によくできた

		市民側	行政側
計画 段階	(1) 事前の話合いを十分に行い、役割・責任分担は明確になっていた	4	4
	(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	5	5
	(3) 協働の役割分担は適切だった	5	5
	(4) 協働相手は適切だった	5	5
実施 段階	(5) 対等な立場での協力関係を築けた	5	5
	(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	5	5
	(7) 事業実施は円滑になされた	5	5
事業 終了 後	(8) 設定した目標が達成された	5	5
	(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	5	5
	(10) 今後の課題と改善策をお互いに話し合った	5	5
(11) 協働による効果			
市民側 各回の反省点を次の回に修正し活かすことができた。			
行政側 おはなし会を定期的開催し、多くの利用者に参加してもらうことで子ども読書活動の推進が図れた。			
(12) 今後の課題、改善事項など(できるだけ具体的に記入してください)			
市民側 図書館側の担当者の引継ぎをきちんとしてほしい。			
行政側 学校への広報活動の効果もあり、出張おはなし会の依頼が増えている。スタッフの育成とボランティアの育成を一層進めるとともに、円滑な情報交換を図っていきたい。			
事業の様子(写真等)			